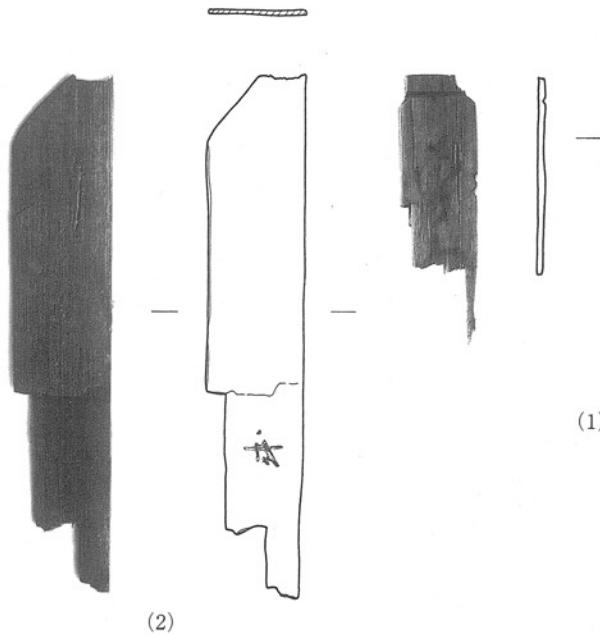


い。(1)は上部に切り込みがある。(2)は上部に加工した痕跡があり、曲物の底板材と考えられる。



(1)

(2)

(稻垣裕二)

新潟・下前川原遺跡

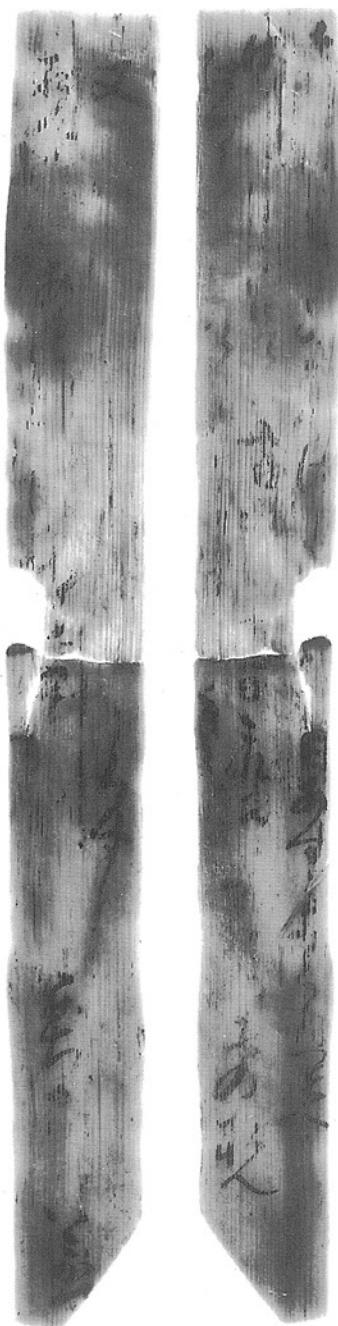
しもまえかわら



(新潟)

1	所在地	新潟県豊栄市高森字下前川原
2	調査期間	二〇〇二年(平14)一一月～一二月、二〇〇三年三月～四月
3	発掘機関	豊栄市教育委員会
4	調査担当者	遠藤恭雄
5	遺跡の種類	集落跡
6	遺跡の年代	古代～中世
7	遺跡及び木簡出土遺構の概要	下前川原遺跡は阿賀野川の河口から六・五kmほど上流の、旧流路右岸の自然堤防上に位置し、水田基盤整備事業に伴って二〇〇一・二〇〇三年度に調査を実施した。調査地点の標高は一・五～三m、調査面積は一八九九m ² である。検出遺構は溝四四条、戸一〇基、土坑二五基、ピット八九五基である。遺物

戸一〇基、土坑二五基、ピット八九五基である。遺物



赤外線デジタル写真

(1)

・ 「あ
カ」 「は
カ」 □日あす□□□□ん
□□□十□□□一□□□□□□ものなん
〔は
カ〕
□かり

・ 「又
なん」 「ふ
カ」 □す
□□□□□□□□□□す
□ち□□□□□□かす」

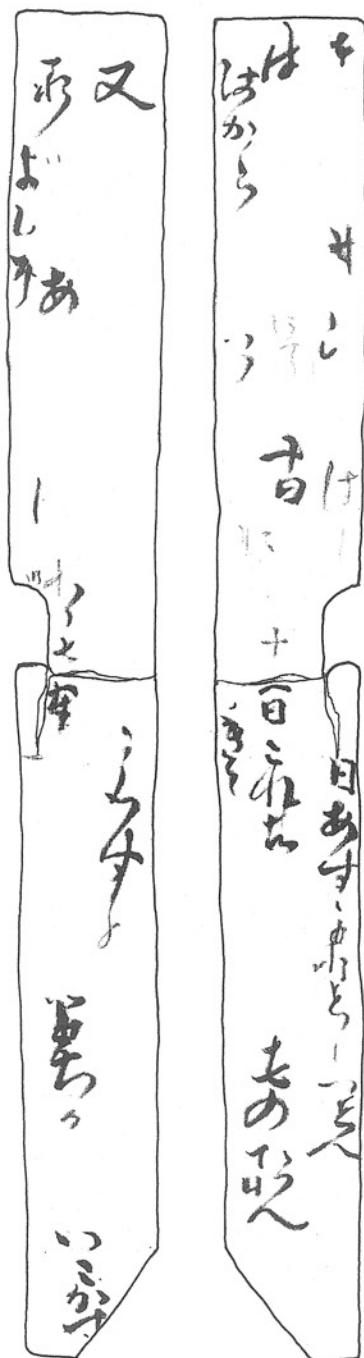
302×35×3 051

は平安時代のものをわずかに含むが、鎌倉時代を主体とし、遺構も同時期のものと推定される。

木簡は、調査区北側で検出した井戸三から一点出土した。井戸二IIは丸木舟を転用した井戸枠をもち、底部付近を中心に木槌・下駄の

8 木簡の釈文・内容

歯・曲物などの木製品や、在地系の口クロ成形底部糸切り土師器を中心とした土器類が多数出土している。土器は一二世紀中頃から後半までの様相を示す。



極目材で一片が接続し、側辺及び接続部の一部を欠損するが、ほぼ完存に近い状態と思われる。上端は切り折りされ、下部は文字を切って斜めに切断されている。

裏面は「又」で始まり、表面から記載が連続すると考えられる。内容的には不明な部分が多いが、日付を追つて物資を量り、動かした記録簡と推定される。

なお 精読は新潟大学の小林昌二氏に依頼し、奈良文化財研究所の綾村宏氏、渡辺晃宏氏、吉川聰氏、山本崇氏ほかのご協力を得た。